

MY MEMORIES

2年7組

私が小さい頃から憧れていたアメリカ。この見知らぬ国で生活した3週間が、とても短く感じられました。

成田から約8時間かけてポートランドへ。到着したのは12月25日、ちょうどクリスマスの日でした。ここでの滞在中には、WeiとMeganの二人のホストが私を迎えてくれました。まずはMeganの家庭で過ごした思い出から・・・。

Meganの家はDowntownからはちょっと離れるけど、ワシントンパークやローズガーデンの近くにあり、Downtownが一望できるきれいな所でした。この家には12月25日から29日、そして1月5日から16日の間お世話になりました。Meganはお母さんのKathleenと、この家の持ち主であるKellyの3人で住んでいます。家は山の中の斜面に建っているので、三階立てなのに三階に玄関があります。私にも二階にある部屋を貸してくれました。

私がここに着いたのが25日ということもあって、その日はおじいちゃんの家でのクリスマスパーティーに連れて行ってくれました。ほとんどの家は色とりどりの電球などで飾り付けられていて、とてもきれいでした。そして家の中には必ず大きなクリスマスツリーがあるのです。

おじいちゃんの家ではゲームをしたりして楽しみました。そしてアメリカでの初めての食事がクリスマスのディナーだったなんて感激！テーブルの上の料理はおばあちゃんの手作りで、日本では食べたことがない様な物ばかりでした。

そこではみんな日本のことを聞きたがっていたので説明したら、私の言っていることを一生懸命聞いてくれていて、話が通じているとわかるとそれだけでとてもうれしかった。家にもどってからお母さんが大きな靴下を持ってきて、その中のプレゼントを私達にくれました。たくさん小さなプレゼントがあっって、こんなにももらえるなんて思ってもいなかったのでびっくり！



この休暇中にはオマハに住んでいるお父さんもポートランドにやってきました。お父さんは今までにたくさん日本人留学生と会ったことがあり、日本語もほんのすこし知っていました。お父さんがここにいる間にお気に入りの映画に連れていってくれました。ディズニーの映画で、タイトルは”ALADDIN”。お父さんが2回も見ただけのことはあって面白かった。もちろん字幕なんてなかったけど内容が十分に理解できたのがうれしかった。それ以上にもっとうれしかったことがありました。それはお父さんが私に”Your English pronunciation is very good!”と言ってくれたこと。これは私にとって英語を話す上で大きな自信になりました。自分の言っていることが正しい発音で相手に伝わっているかと思うと、話すことが楽しくなります。でも、言いたいことがなかなか単語になってでてこなくて、もどかしく思うことがよくありました。

12月30日から1月4日迄のあいだはWeiの家にHome stayさせてもらいました。Weiは中国人で、お父さんとお母さんの3人で住んでいます。家はDowntownに近くて、学校からも歩いて10分ぐらいのところ。アメリカには5年前に来たそうで、英語はアメリカ人のように話せます。お母さんは去年までポートランド州立大学の学生だったそうです。お父さんは中国料理か何かのお店のコックさんということで、家にいる時はお父さんが料理をしてくれます。ここではもちろん毎日中華料理。ラーメンとか餃子なんかも作ってくれて、American Foodばかり食べていた私にはなぜか新鮮に感じられました。家のなかには水墨画の掛け軸があったり、日常会話には英語と中国語と一緒に使われていたり、アメリカの中での中国も体験できて面白かったです。



New YearもWeiの家で過ごしました。31日にいつもよりちょっと豪華な夕食を食べた後1月1日を待ちました。外ではちょうどその日に雪が降り、路上にもまだ雪が積もっていたので、近所の人たちとタイヤのチューブや、そりに乗って遊びました。坂道がかなり長く続いていて、道路の真ん中を滑り降りるので「危険じゃないの?」って聞いたら「平気よ。」って言われました。日本でやったら絶対怒られますよね。

12時が近づくと外はだんだんにぎやかになり、いよいよ12時になると一斉に爆竹を鳴らしたり、"Happy New Year"と叫びました。こういう新年の迎えかたは初めてだったので、とても楽しかったし、印象的でした。

ポートランドは普段は雪の降らない所なので、少しでも雪が積ると雪だるまを作ったり、雪合戦をしているのをよく見かけました。もちろん私達も、庭に小さな雪だるまを作りました。

私が一番面白いと思ったのはDowntownでいろいろなアメリカ人に会えたこと。アメリカという国にはいろんな人種がいて、そこに住んでいる人々も、とても個性的。服装や髪型なんかを見ていると、それが良くわかります。結局自分を表現しているということかもしれない。だから自分がどんな格好をしようと自由なわけだし、周りからも何も言われないうえです。さすが自由の国アメリカ！私の場合すぐ周りの目を気にしてしまうので、少し羨ましく思いました。

又、アメリカ人は親しみやすい人ばかりだと思いました。街の中でいろんな人に話しかけても、変な顔ひとつせず必ずにっこり笑って返事を返してくれるのです。お互いにまるで前から知り合いだったかのように話ができるのです。Downtownの雪解けでひどい道路を歩いていた時に、すれ違ったおじさんが"濡れないように気をつけなさい。"って優しく言ってくれたり、お店とかに行くと店員さんが"Hi"って声をかけてくれます。それが何となく私にはうれしく思いました。

1月4日から2週間、私が一番楽しみにしていた学校に通いました。学校では毎日ホストが代わって、いろんな授業を見て回る事が出来ました。ホストの人とはもちろんですが、その周りには友達とも知り合いになりました。だから、日が経つにつれて知っている人が増えていきました。そして、廊下とかですれ違うと互いに声をかけあいます。こうやっている、自分がアメリカの高校生になったような気がしてきました。

学校では6、7時間目にField Tripということでオレゴン歴史センターやポートランド美術館、OMSIそしてriver sideにある日系アメリカ人の史跡公園などにも行きました。

私達が帰る前日、host studentsがみんなでパーティーを開いてくれました。とても楽しいパーティーで、そのあとLloyd Centerにも行ったりして、ポートランド最後の夜の楽しい思い出になりました。

1月16日、いよいよ日本に帰る日です。ここで3週間も過ごしたなんて信じられないくらいあっという間に時間が過ぎて行きました。空港に行く前にMeganのおばあちゃんの家へ寄ったら、おばあちゃんは"I miss you"と言って抱きしめてくれました。もう会えないかもしれないと思うと寂しくて涙がでそうになり、何も言ってお別れすることが出来ませんでした。

空港ではHost Familyの人たちがみんな見送りにきてくれていました。別れの時がきてもみんなにいっぱい言いたいことがあったのに、涙と一緒に流れてしまったように何も言葉になりませんでした。

ここで出会った人々はみんな素晴らしい人ばかりでした。そしてきっといつの日か再びみんなに会えることを信じています。全てが楽しい事ばかりではありませんでしたが、この国で目にしたこと、感じたこと、体験したことは決して忘れることはないと思います。私はポートランドに来ることができて本当に良かったと心から思います。最後にお世話になった先生方、Hostの方、そして両親に感謝したいと思います。